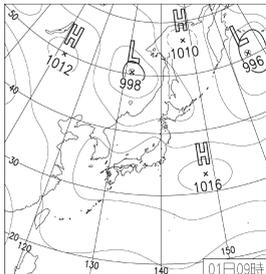


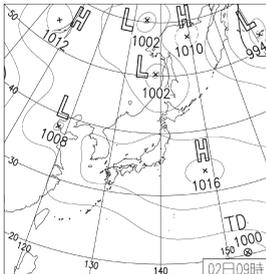
日々の天気図

— No. 211
2019年8月

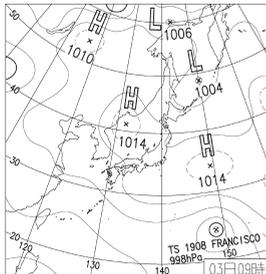
- ・8～9日、大型で猛烈な台風第9号が宮古島地方を通過、停電等。
- ・15日、台風第10号が西日本を縦断、西日本を中心に総雨量500mm超。
- ・27～28日、九州北部で相次いで猛烈な雨を観測、佐賀・福岡・長崎県に大雨特別警報発表。佐賀県で200mm/3h超の地点も、河川氾濫等。(気象庁予報部予報課)



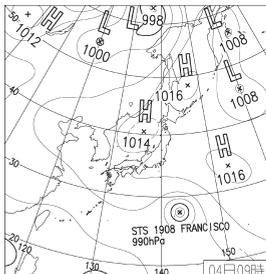
1日(木)東京今年最初の猛暑日
太平洋高気圧に覆われ、北海道の一部を除いて晴れ。東日本～北日本では午前中から気温が35°Cを超えた所も。午後は大気の状態が不安定となり各地でわか雨。



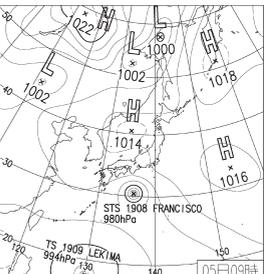
2日(金)沖縄で猛烈な雨
上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で、沖縄・奄美は雷雨。沖縄県渡名喜で92.5mm/1hの猛烈な雨。西～北日本は概ね晴れたが、午後は所々で雨。南鳥島近海で台風第8号発生。



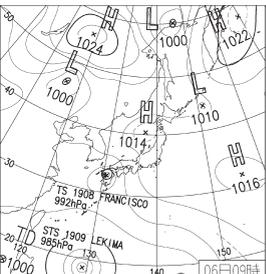
3日(土)厳しい暑さが続く
沖縄・奄美は気圧の谷の影響で雨。その他は晴れたが西～東日本を中心に大気不安定。栃木県足尾49.5mm/1h。最高気温は福岡県久留米で38.4°C。北海道登別32.4°Cは観測史上1位。



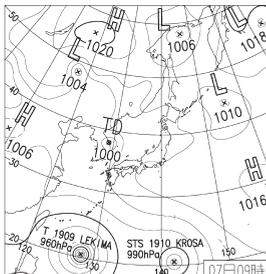
4日(日)台風第8号、父島に接近
太平洋高気圧や日本海の高気圧に覆われて西～北日本は概ね晴れ。兵庫県豊岡で37.9°Cなど全国123地点で猛暑日。台風第8号は父島付近を西北西進。母島で33mm/1hの激しい雨。



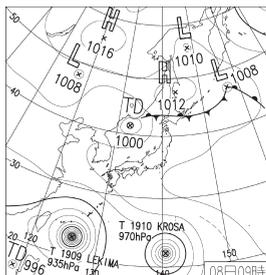
5日(月)西～北日本猛暑続く
台風第8号は強い勢力に発達して日本の南海上に西北西進。台風周辺の雨雲の影響で、西日本の太平洋側は次第に雨。本州付近は猛暑が続く。大阪府熊取の36.1°Cは史上1位。



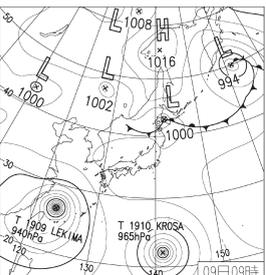
6日(火)台風第8号九州上陸
台風第8号は明け方に宮崎市付近に上陸し、昼過ぎには対馬海峡へ。宮崎県古江の95.5mm/1hは観測史上1位の値を更新。同県赤江の最大瞬間風速39.6m/sは、8月の1位を更新。



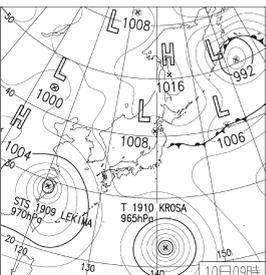
7日(水)日本の南に2つの台風
台風第9・10号が日本の南を北上。台風第9号や湿った空気の影響で沖縄～西日本太平洋側は雨。東日本は午後に所々雨。全国的に気温が上昇し、西～北日本の194地点で猛暑日。



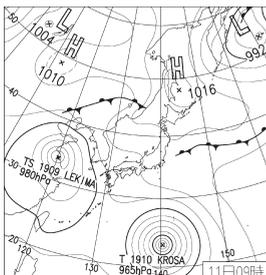
8日(木)大型で猛烈な台風接近
台風第9号は宮古島に接近し沖縄・奄美は雨。沖縄県下地33.7m/s、鏡原30.1m/sの猛烈な風。北海道も台風第8号から変わった低気圧が接近し雨。その他は概ね晴れて猛暑続く。



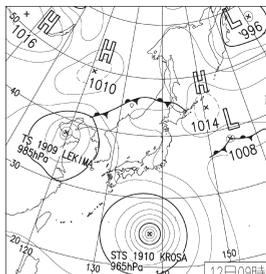
9日(金)西～東日本、各地猛暑
台風第9号は東シナ海を北西進。西日本～東日本は太平洋高気圧に覆われ、晴れて各地で猛暑。茨城県大子の最高気温39.0°Cは観測史上1位。北日本は低気圧の影響で曇りや雨。



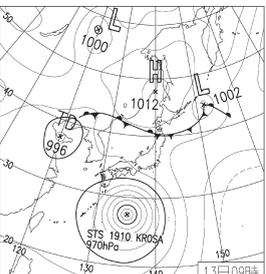
10日(土)北日本で大雨
日本海の低気圧の影響で東北日本海側を中心に大雨。秋田県では笹子の66mm/1hなど観測史上1位を更新した所も。南西諸島は台風第9号へ向かう湿った空気の影響で雨。



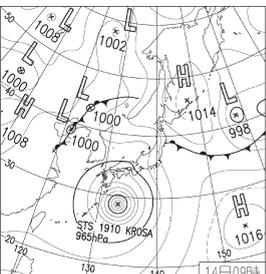
11日(日)台風第10号停滞
北日本は気圧の谷の影響で所々雨。その他は概ね晴れて、西日本中心に気温上昇。京都府福知山で38.2°Cの猛暑日。台風第10号は小笠原近海で停滞。父島で最大瞬間風速31.3m/s。



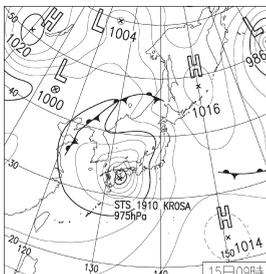
12日(月)西日本中心に猛暑
西～東日本の太平洋側は台風第10号や湿った空気の影響で所々雨。北海道は前線の影響で雨。その他は晴れや曇り。鳥取で38.2°C、大阪府堺で37.4°Cなど西日本中心に猛暑日。



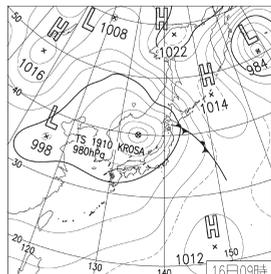
13日(火)西～東日本の猛暑続く
台風第10号が日本の南を北上。西日本～東日本の太平洋側は雨の所も。北日本は寒冷前線が南下し所々で雨。その他は概ね晴れ。全国12地点で最高気温が観測史上1位の値に。



14日(水)新潟県で40°C超
日本の南を北上する台風第10号の影響で西日本は雨、東日本も太平洋側で雨。北日本は高気圧に覆われ晴れや曇り。新潟県高田で最高気温が40.3°Cに達し、観測史上1位を更新。

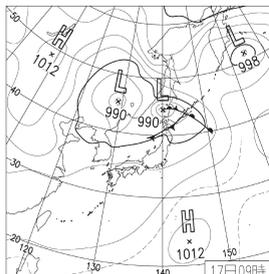


15日(木)台風第10号西日本上陸
台風第10号は豊後水道を北上し広島県市付近に上陸。北陸は一日中気温が高く、新潟県糸魚川の最低気温31.3°Cは高い値として全国の史上1位。最高気温は同県中条で40.7°C。



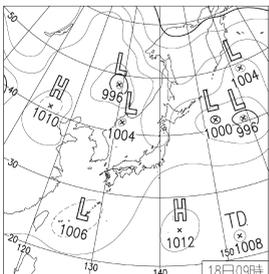
16日(金)日本海側で高温

台風第10号は日本海を北上し北海道の西海上で温帯低気圧に。西日本は午前中、東～北日本は午後にかけて雨。本州の日本海側で気温が上がり、午前中に35°Cを超えた所も。



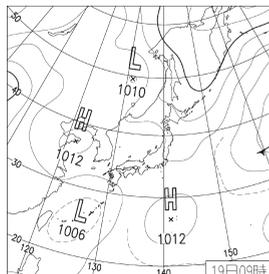
17日(土)東日本中心に猛暑

北日本は低気圧や前線の影響で午前中を中心に雨。沖縄は気圧の谷の影響で所々雨。その他は高気圧に覆われて晴れ。最高気温は東京都練馬36.9°Cなど、東日本で顕著に上昇。



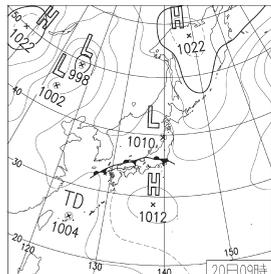
18日(日)本州は厳しい残暑

岐阜県多治見37.2°Cをはじめ近畿～東北では猛暑日の所も。午後には大気の状態が不安定、静岡県梅ヶ島で45mm/1h。沖縄・奄美と九州は気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨。



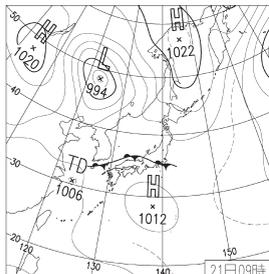
19日(月)所々で非常に激しい雨

太平洋高気圧の縁を回る湿った空気が南西諸島～東日本に流入。大気の状態が不安定となり、沖縄県粟国で76.5mm/1h、新潟県板尾で73.5mm/1hなど各地で非常に激しい雨。



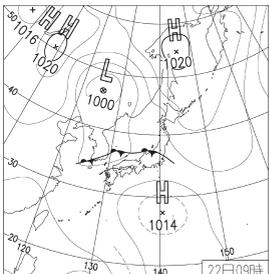
20日(火)全国的に大気不安定

沖縄・奄美は東シナ海の熱帯低気圧、西～東日本は前線や湿った空気、北日本は上空の寒気の影響で、各地で雷雨。熊本県牛深で56.5mm/1hなど非常に激しい雨の所も。



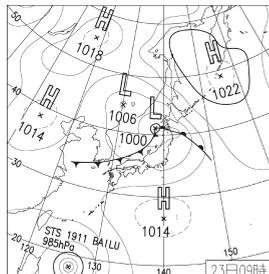
21日(水)前線停滞

前線が対馬海峡から北陸、関東南岸にのび、ほぼ停滞。前線に近い山陰～北陸で雨。東海～関東でも午後は雷雨。北日本の太平洋側は湿った空気が入り曇りや雨。



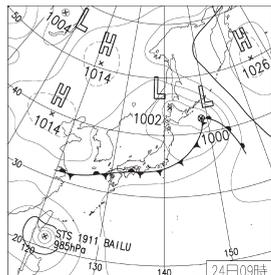
22日(木)北陸で非常に激しい雨

日本海から北陸に停滞している秋雨前線の影響で西日本の日本海側～東北で雨。北陸地方を中心に大気の状態が非常に不安定で、石川県七尾で68mm/1hの非常に激しい雨。



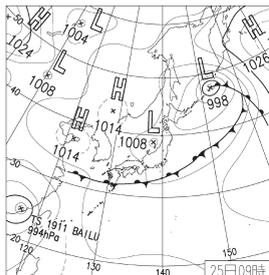
23日(金)西～北日本で大雨

日本海の低気圧や前線及びこれらに吹き込む湿った空気の影響で、西～北日本の広い範囲で雨。日本海側を中心に大雨の所も。7月23日以来31日ぶりに猛暑日の地点が0に。



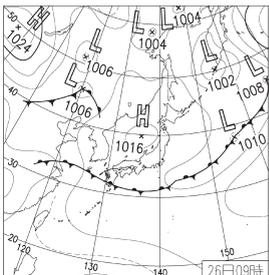
24日(土)北日本で大雨

沖縄は台風第11号、西日本～東日本は前線、北日本は低気圧の影響により雨の降った所が多い。北海道川湯58mm/1hは観測史上1位。関東甲信と東北は日中概ね晴れ。



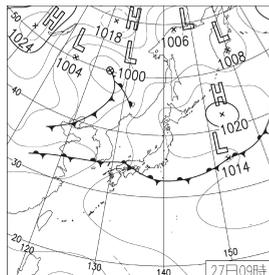
25日(日)前線が九州付近に停滞

前線に近い九州と四国は曇りや雨で、九州南部では雷を伴って激しい雨の所も。北陸や東北日本海側は大気の状態が不安定で活発に発電。新潟県筒方の53mm/1hは史上1位を更新。



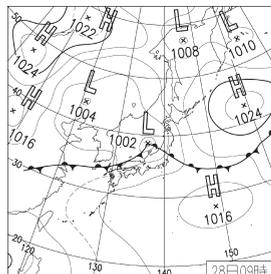
26日(月)群馬県で猛烈な雨

前線が九州南部を通して日本の南海上へのび、九州、四国は雨、高気圧に覆われた近畿～北日本は概ね晴れたが、関東の山沿いでは午後は雷雨の所も。群馬県榛名山で82.5mm/1h。



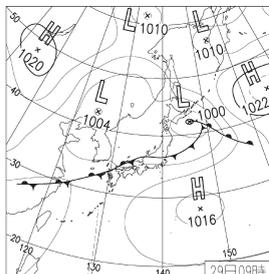
27日(火)九州北部で大雨

前線が日本付近を北上し、夜には前線の低気圧が山陰沖へ。西日本～東北は広く雨。前線に向かって暖かく湿った空気が入り九州北部では大雨。長崎県松浦で日降水量253.5mm。



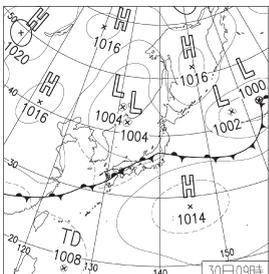
28日(水)九州北部に特別警報

前線や低気圧に暖かく湿った空気が流入し、西日本中心に北日本にかけて大雨。九州北部では猛烈な雨を相次いで観測。佐賀県佐賀110mm/1h、白石109.5mm/1hは観測史上1位。



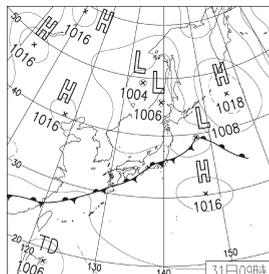
29日(木)九州北部、大雨続く

前線が西～東日本に停滞、暖かく湿った空気が入って九州北部中心に大雨が続く。山口県東厚保では160mmの日降水量。前線活動が弱い東海、関東は晴れて猛暑日の所も。



30日(金)全国的に曇りや雨

前線が九州から本州にかけて停滞し、全国的に曇りや雨。西～東日本は所々で雨が強まり、鹿児島県上中64.5mm/1h、静岡県松崎57.5mm/1hなど8月1位の記録を更新した所も。



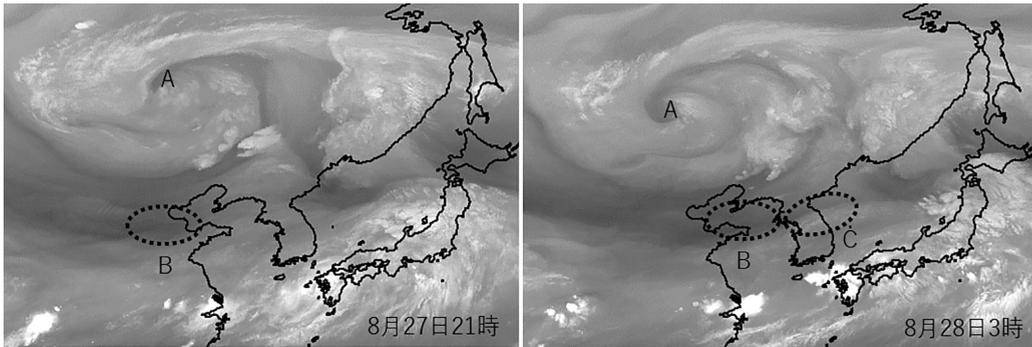
31日(土)北海道で猛烈な雨

上空の寒気と湿った空気の入った北日本では大気の状態が不安定。北海道岩見沢の94.5mm/1hは観測史上1位。前線は本州南岸に停滞し、西～東日本の太平洋側で曇りや雨。

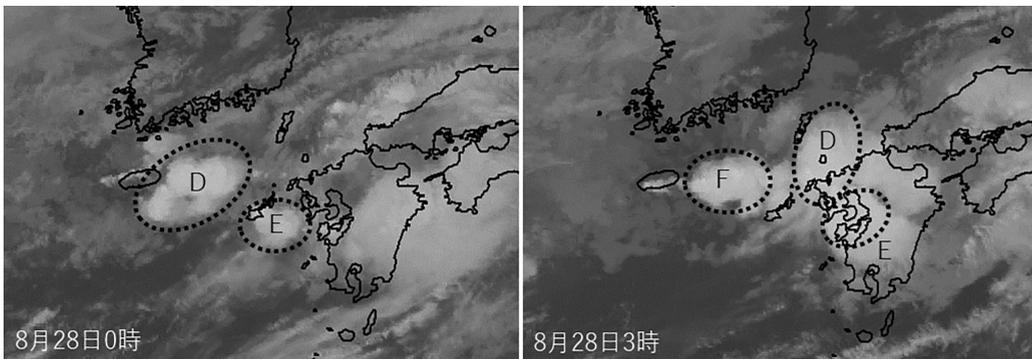


今月のひまわり画像—2019年8月

九州北部地方に記録的大雨をもたらした積乱雲



第1図 2019年8月27日21時（日本時間）（左）と28日3時（右）の水蒸気画像



第2図 2019年8月28日0時（左）と28日3時（右）の赤外画像

2019年8月27日、西日本に停滞していた前線の活動が活発となった。28日明け方には東シナ海から九州北部地方に線状降水帯が形成・維持され、福岡県や佐賀県では3時間及び6時間降水量が極値更新するほどの記録的な大雨となった。気象庁は28日5時50分（日本時間）に佐賀県、福岡県、長崎県に大雨特別警報を発表した。26日～29日までの総雨量は長崎県平戸市平戸で626.5mm、佐賀県唐津市唐津で533.0mmに達するなど、8月の月降水量平年値の2倍を超える大雨となった所があった。今回は、この線状降水帯の状況について衛星画像で振り返ってみたい。

第1図は27日21時と28日3時の水蒸気画像である。27日21時にバイカル湖の東にあった上層渦Aは南南西進し、28日3時にはモンゴルへ進んだ。一方、27日21時に華中にあった水蒸気画像の暗域Bは、その域内の輝度温度を上昇させながら東進し、28日3時には

山東半島へ進んだ。この暗域の東進に合わせるように、その進行前面にあたる朝鮮半島から日本海にかけて極方向に膨らんだバウンダリCが現れている。

第2図は28日0時と3時の赤外画像である。0時には3時間前にチェジュ島付近で発生した積乱雲群（以下「Cb群」）Dが時速約65kmで東進している。一方、五島列島付近には新たなCb群Eが発生している。同日3時にはCb群Dに加えCb群Eも時速約35kmで東北東進を始め、これらが次々に九州北部地方に進入し、大雨をもたらした。加えて、同時刻には、チェジュ島の東にも新たなCb群Fが発生し、東北東へ時速約65kmで移動を開始している。これら一連のCb群の動きは、上層風の風上側に連続して発生する強い対流雲が次々と風下側に移動しながら大雨をもたらすという線状降水帯の特徴をよく表していた。

（気象庁予報部予報課 野中信英）